

# ばれいしょ

ナス科：アンデス高原

## 栽培暦

月 旬	3			4			5			6			7			8		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
主 な 作 業				● ——— ▲ ——— ▲									■					
				催芽			種定植 いも消毒			芽かき			追土 寄せ 肥せ			収穫		
										←—————→								
										病虫害防除								

### ■栽培のポイント

1. 無病の種いもを用いる。
2. 病虫害防除を徹底する。
3. 連作は避け、ナス科（トマト、なす）以外の作物と輪作する。

■品種・種いも量 男爵、メークィーン、キタアカリ。a 当り 20 kg使用する。

■種いも催芽 種いもは、採種ほ産の無病のものを使用する。

生育を均一にするために、催芽を行う。定植 30 日前に頂芽を上にして箱に並べ、ハウス内に互いに違いに重ね、上部には寒冷しゃを被覆して直射日光を避け、温度を 15～20℃として、定植までに芽の長さを 1 cm 程度にする。また、光が均等に当るように、箱の並べかえを行い、高温にならないように注意する。

種いもが大きい場合には、催芽開始前に頂芽の方から 1 切片が 40 g になるように立て 2/3 に切り込みを入れ、定植 2～3 日前に手で割って分割する。

■植え付け準備 完熟堆肥は、前作か前年の秋に施す。未熟なものは、病虫害の発生を助長するので施用しない。基肥は a 当り分量で窒素 1.7 kg、リン酸 2.0 kg、加里 1.5 kg を全面散布し耕起する。

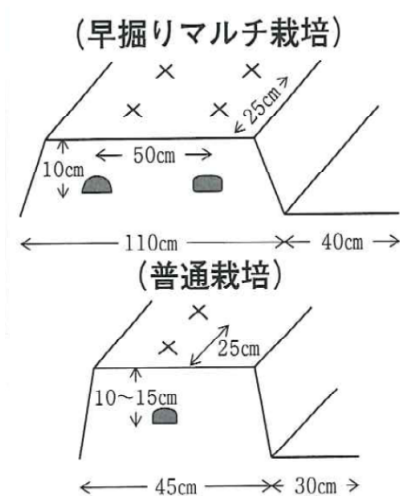
うね幅 75 cm、株間 25 cm の 1 条植えとし、深さが 15 cm 程の植え溝を切る。

## 施肥例

(a 当り)

肥料名	基肥	追肥	備考
堆肥	300kg	—kg	堆きゆう肥は前作か前年の秋に施用する。
MMB14号	12	—	
BMようりん	4	—	成分量 窒素：リン酸：加里
苦土石灰	6	—	基肥 1.7：2.0：1.6
麟硝安加里 S 604	—	4	追肥 0.6：0.4：0.6

## うねつくり



■**本畑管理** 芽の数が多いと、くずいもの割合が多くなるので、芽が 10 cm程に伸びた時に、株元を押さえて、細い芽をかき取り、1 株 1~2 本とする。

6 月上旬頃茎葉が 15 cm時に追肥をし、株元に土寄せを行う。土寄せが不十分であると、いもが着生する地下茎に光が当り葉に変化する。またいもに光が当り、緑化して商品価値が低下する。

追肥量は、a 当り窒素成分量で 0.4~0.6 kgである。

■**病虫害防除** 種いもは必ず無病のものを使用する。黒あざ病は酸性、そうか病はアルカリ性で多発するので土壌 pH 6.2 に調整する。疫病は、気温 18~20℃多湿条件で多発する。窒素過多による軟弱な生育をさせないようにし、ほ場の排水を図る。

害虫では、オオニジュウヤホシテントウ、アブラムシが多発するので、早期発見に努め防除を行う。

■**収穫** 収穫は、茎葉が黄化してきた頃とし、雨天時、雨天直後の収穫は皮むけが多くなるので晴天時に行う。収穫後は直射日光に長時間あてず、日陰で 2~3 日風乾後に調整する。

目標収量は、a 当り 300 kg。